

脚色者
撮監影督者
主要役割

(三) 卷

澤川 高堂

谷松 佐藤

口英青

一秋氏

穎氏

時賀 妙子

小間使

お琴

別荘番作造

村の書記

蛭田

友人

澤川

横田 鈴木見蘭

濱田 信子

格吉明子

千嬢氏

典氏

娘氏

裕氏

秋氏

穎氏

『略筋』。時賀は病の保養の爲め山の別荘で冬を過ごした。彼の夫人妙子は時賀とは年も可成り違つた若い美しい女であつた。時賀の胸にはたりぬくや或る不安があつた。村の書記蛭田が出入する様になつてから夜彼は庭先で若い男女が密會して居るのを見た、うして蛭田は毎日女を模に妻の許に訪れる事を知つた、時賀は嫉妬の炎に燃えあつた。そうして彼の心は嫉妬の炎に燃えあつた。その後時賀は又も現場を見た。妻を獵銃で打つて了つた。時賀に驚いて駆けつけて来たのは殺された女は小突然の銃聲に驚いて駆けつけて来たのは殺された女は小突然間使のお琴なのであつた。

小品三部曲映画として発表した三篇の小品映画である。「山」の一編は中々器用な脚色監督振りである。悲劇喜劇などは中々鮮かである。物語を出して居るのは中々鮮かである。物語としたラストの扱ひも非常に面白い味を出しで居た。高堂國典氏の時賀が成功して居る。物語も大變に見事で申し分ない。里見氏も濱田氏扮装演出上品に笑はせる、「川」は一種の氣分劇の内最も整つた映画と云へよう。

（拾壹月廿日、大阪音邊劇場封切）

山本綠葉一